

中三生はまだ伸びる

●中三生の受験も公立の一般入試を残すのみ。疲れ果てて、もうやる気が出ないとぼやいている人も少なくないだろう。しかし、ここで立ち止まるな。あと一週間。最後のひとふんばりだ。なぜなら、中三生はまだまだ伸びるからだ。そのことを、具体例をあげて説明しよう。

●まずは、理社が苦手という生徒のこと。模試でも過去問でも、三十点台。ところが、創学舎の直前補習で生まれかわり、本番では、今まで見たこともない高得点！わずかに二週間前は、三十点の理科が本番で七十点とか、いつも四十点台の社会で八十点とか…。ウンではない。こんな人達が毎年ゴロゴロいる。もちろん八十点を九十点にするのは大いに可能性がある。



●次。過去問をやって目標点に届かない生徒。まだ伸びる。まずケアレスミスが何点ありますか？それは得点に変わります。当日だけ気をつけよう、はダメ。あと十日間で、今までのケアレスミスの所を全て頭の中にたたきこむのです。それから、解答を読んですぐに理解した問題が何点ありますか？それも得点に変えられます。

す。何故なら、理解できるのは、すでに頭の中に知識が入っているからなのです。あとは、それを引き出す訓練のみ。

●分かったかい。分かったら今から十日間。一時間二点のつもりでがんばれ。そして、あなたの夢をきつとかなえよう。(小林(健))

記憶を強化するやり方

●「一週間後、五十個の英単語のテストをします。一日何個ずつ練習しますか。」という尋ねると、毎日七個ずつ練習する

と答える生徒が結構多い。七個ずつ七日練習し、最後の一日だけ八個にすればちょうど五十個、というわけだ。しかし、これでは全くダメ。やってみればわかることだが、今日新しく勉強したことは翌日になると半分は忘れていくものだ。一週間たてば、ほとんど覚えていない。一日七個ずつ練習したのでは、テストの時に覚えているのは、前日に練習したもののぐらいである。

●ではどうすればよい

一般入試直前の注意

●**ケアレスミスは、命とり!** 県立の入試は、問題が比較的易しいので、合格のためには高得点が必要である。いくら力があってもミスによる失点が多ければ合格はおぼつかない。

●**字は丁寧に。** 紛らわしい字はすべて×になるというのは、採点官の話です。

●**問題はよく読め!** ミスをしないためにも、問題をきちんと読むことが必要である。記号で答えるべきものを、語句で変えたりしないよう十分な注意をすること。

●**理社は試験当日まで、いくらでも伸ばせる!** 弱い部分があれば、集中的にやること。また、社会は、時事問題も忘れずに目を通しておくこと。

●**英語は、まず、直前テキストの単語・書き換え・連語を徹底してやること。** 特に、曜日・月・季節・数字などの基本的な単語は絶対に出るので要注意。この部分で失点しなければ、かなり有利に闘っていけるはず。他の項目も直前テキストを繰り返して、完全にできるという自信をつけておくこと。

●**数学は、計算ミスを絶対にしないように!** また、全問解けなくてもあわてないこと。解けるものから確実に解いていくように。

●**解答欄はすべてうめること!** 県立の入試は、比較的易しいのは事実だが、すべての問題に解答できるはずがない。当然、分からない問題もあるはずだ。そのときは、得意の勘を働かせて答えを書き入れること。もしかしたら正解かもしれないのだから…

●また、公立入試は、1日目に5教科のテストをし、2日目に面接や小論文など、その学校独自の検査を実施することになっているが、とにかく初日が勝負。5教科の学科試験をしっかり乗り切ることだ。その際、気をつけてほしいのは、悪い科目があっても、それを次の科目に引きずらないことだ。5科目すべてが順調にいくことなどありえないことなのだから。たとえ、1教科、2教科出来が悪くても、他の科目で挽回。

●2日目のことは、1日目が終わってから考えるぐらいでよい。2日目の検査では、余り差はつかないはずだ。ただし、小論文の検査がある人は、少し準備しておいたほうがよいかもしれない。

●最後に、テスト当日は30分位時間をとって問題を解いてから家を出ること。そうすることで眠気がとれ、頭が使える状態になるはずだ。

●とにかく、もう目の前まで来た。**精一杯の努力をして目標を達成してほしい。健闘を祈ります。**

か。そう、毎日五十個練習するのである。何度も何度も練習するのである。繰り返し回数が増えるほど、知識の定着はしつかりしたものとなる。新しいことを学ぶと、脳細胞の間に新しい結び付きが生まれる。一度やったくらいでは、この結び付きは弱くすぐに消えてしまう。しかし、繰り返しで強化され、知識が定着することになる。



の前に一夜漬けをしたら、テスト終了と同時にきれいさっぱり忘れてしまった経験はあるだろう。これが短期記憶である。入試では、余りに覚えるべきことが多いために一夜漬けが通用しない。したがって、長期記憶ができるようにしておかなければいけない。一日で覚えるより、一週間かけて覚えた方が長期記憶に残っているし、一ヶ月かけた方がさらに良い。

●何度も繰り返すのはいいが、気をつけなければならないことがある。それは、一回目から完

壁を目指してはいけないということだ。一回目がなかなか先に進まないで、本人に尋ねると「気になって先に進めない。とぼすのは性格に合わないんです。」こういう生徒は性格を変えなければ伸びない。一回目は通りやり、数学の難問や、英語や古文などで解釈できない所はマーカーなどでチェック、二回目、三回目にきちんとできるようにしていけばよい。一通りやることで、解くために必要な知識が頭に入り、一回目には気づかなかつたことが、二回目には「ああ、こういうことだったのか」と気づくことも多い。難問を一度で理解しようとするのは無理である。何度も解くうちに解き方が身につけばよい、くらいに考えて頑張ることだ。勉強には、緻密さと、ある種のいい加減さがともに必要となる。くれぐれも使う場所を間違えないように。

(大場)

嫌いな勉強は必要か

嫌いな科目の勉強は必要か。このことについて私は私自身が受験生だった時は必要ないと本気で思っていました。ところが、今はそうは思っていない。このことを考える時、私自身の高校受験、大学受験を思い出さずにはいられません。

私の高校受験、大学受験、今考えてみると本気でチャレンジしたような気がしません。自分

が好きな科目、それがたまたま自分の受験する大学に合っていただけなのではないかと思えます。今まさに受験を迎えている(または受験がやっと終わった)みなさんの中には『なんて奴だ!』と思われる方もいらっしゃると思います。まさにその通りです。そして、どうしてこの科目を勉強しなかったのだろうかと後悔しました。そう思うようになったのは大学入試を終えて、随分経ったときでした。

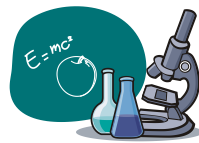
今だからわかることがあって、受験を一生懸命自分なりに乗り切ろうとしなかったのです。

例えば、私は理数系は好きだったので、一日に十時間以上勉強してもそれほど苦痛にはならずにやっていました。が、文系科目(国語、社会)は全くと言っていい程やりませんでした。つまり好きなことだけ勉強したわけです。簡単にいうと好きなことに逃げ込んでいたわけです。趣味と変わりません。ところが社会に出てからそれが間違っていたことに気がきました。文章を組み立てる能力が全然ついておらず、自分のいたいことが相手に伝わらなかったのです。言葉を発すれば発するほど、どんどん深みにはまっていきました。それから知識のバランスの悪さを少しずつ克服しようと思えました。

ここで皆さんに覚えていただきたいことは、偏った勉強(これは受験勉強だけではありません)は、将来大人になってから、その人を偏った人間にしてしまうということです。ある程度バランスの取れた勉強をしておけばしなくても

よい苦勞をわざわざ自分から呼び寄せしてしまうことはないのです。私も含めて皆さんも人間ですから好き嫌いはあって当然だと思えますし、それが悪いことだとは思いません。ただそれがその嫌いなことをやらなくてもいい理由にはならないということです。

今は受験の真つ只中です(終わった人もいるとは思いますが)。この時期は受験に必要な科目を必死にやってください。ただ受験が終わったあと、特に専門系に進学する人は、必要のない科目は勉強しなくていいのではなく、勉強しておかないと苦勞を呼び込むことになるということとを、一度考えてみて下さい。(岡本)



富士山とインフレーション

新幹線で仙台へ向かった時のことである。朝が早く、うとうとしかけたころ、思いもよらない景色に出くわした。

そこには、富士が、あった。

列車が、東京都から埼玉県に入ると、一気に眺望が開けて、ビルや住宅の立ち並ぶ関東平野の先に、富士の雄大な山容が現れたのだ。快晴の秋の空に、豊かな稜線が美しく映える。富士を見るなら西へ行くものだと思うっていた私は、意外な収穫に感嘆の声を漏らした。

そういえば、仕事に向かう常磐線の車窓からも、富士山が見える。取手駅を出てすぐに渡る

鉄橋、その向こう岸の地平線に顔を出す。ただし、その姿を見られるのは、空気が澄んでいる時間帯だけだ。車が渋滞したす

頃にはもう見えない。それでも、風が強い日は、ガスが流されて昼間でも見られるときもあるが、どちらにしろ、稀有なこと



だ。だから、他の乗客もあまり気付いていないようで、ささやかな優越感にひたるひとときだ。なぜだろうか。富士を見ると無邪気に喜んでしまう。私が九州の出身だからという理由だけではあるまい。それは、たとえば、赤ん坊の笑顔を見て反射的に口元がほころんでしまうような、理屈ではない根源的な何かである(SFの大家、小松左京の小説では、ある理由から国連決議により富士山に水爆が打ちこまれることになり、海外にいた主人公が最後に富士山を一目見るために危険を冒して帰国するというくだりがある。実際に自分だったらそんな行動はできないだろうが、情情的には、大いに共感する)。

三月七日は中三卒業遠足の日。目的地の富士急ハイランドは、富士のすぐふもとにある。創学舎という「学舎(まなびや)」を巣立つ生徒たちの心に、たくさんの思い出とともに、富士の美しい姿が残ることを願う。

(関)

▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。